

平成 20 度事業報告書

特定非営利活動法人 学生人材バンク

一. 特定非営利活動に係る事業

(1) ボランティア・イベント・アルバイトの情報提供事業

【事業概要】

本年度の弊社の情報提供方法は大きく分けて2種類である。

①電子メール配信サービス『とりつく』

②交流スペース『鳥取情報市場』

【事業結果】

①情報配信事業『とりつく』

新規登録者が年間で313名。合計で常に約800名の登録学生（卒業生や退会者が流動的であるため）に電子メールにて、地域の情報を年間で222通提供した。内訳はアルバイト情報（112）ボランティアイベント情報（68）お勧め情報（24）就職情報（18）である。

②交流スペース『鳥取情報市場』

『鳥取情報市場』というコミュニティスペースを平成20年4月1日にオープンした。大学生へのアナログの情報発信を目的として設置し、毎週月曜から金曜の11:00～18:00に開所している。年間で3,995名の来場者があり、開設日は年間約200日であったので（お盆・正月などは閉所）、一日当たり15名～20名の学生が足を運んでいた。鳥取情報市場内の企画については、学生プロジェクトを立ち上げていたので、事項にて報告する。

【事業評価】

メール配信サービスは、昨年度までは年平均200名の新規登録者であったが、昨年よりも多くの学生が登録した。鳥取情報市場を開設したことにより、学生との接点が増え、登録先である弊社の顔が見えるようになった。また弊社の事業の具体性と、学生の意見を直接聞くことができる場所ができたことで相乗効果を生んでいることが大きな効果と捉えている。

【次年度への展望】

より多くの学生に鳥取情報市場を活用してもらうためにサークルとの連携や、滞在時間を長くするための方策を導入していこうと考えている。そして鳥取情報市場に足を運ぶことで、弊社の別事業への参加が増えるように発信方法の再検討に力を入れる。

(2) 学生が主体的に考えて活動するプロジェクト支援事業

【事業概要】

学生のプロジェクト事業は7プロジェクト。

【事業結果】

①農村16きっぷ

農村16きっぷでは、鳥取県農林水産部耕地課による委託事業『鳥取県農山村ボランティア事務局』を学生と運営すること、それに自主事業を併催する形で行なった。年間を通して、延べ500名の学生が鳥取県内の約30の農村集落を訪問し、ボランティア作業やイベント参加などを行なった。1月には農村交流会を開催し、集落住民の声を聞いたが『少しの人が来ることでムラの生業が保てている、この活動を大事にしてほしい』などの声が聞かれた。

また、農村の情報を集めて発信する『農村16きっぷ』を年間2回、4000部発行した。

自主事業としては、平成17年から継続している智頭町中島集落での立命館大学との交流プログラム『村咲ク』を夏と冬に2回。昨年度の農村交流会でアイデアが提案された鳥獣害対策イベント『柿ドロボー』を岩美町鳥越集落にて開催した。

取材としては、読売新聞、山陰中央新報、毎日新聞、日本海テレビに取材される。

2009年3月に第6回オーライ！ニッポン大賞を受賞。

【事業評価】

オーライ！ニッポン大賞の受賞および、農村交流会での集落の方のコメントが示すように、派手さはないが堅実に地域と向き合った結果の積み重ねが対外的にも評価されたと言える。

【次年度への展望】

学生の参加だけでなく、地域の若者や“農”に興味のある方に対して、学生の柔軟な姿勢で

参加動機を作っていくことが求められてきている。また、学生の関わり方もより主体的にできるように、責任と権限をうまく与えることと考える。

②鳥取仕事専科

(財)ふるさと鳥取県定住機構の委託事業『学生サポーター事業』を学生と運営した。主に、県内企業の経営者を取材する『鳥取仕事専科』を中心とし、県内5社、鳥取県出身1社(東京)へ取材を行いA3サイズの壁新聞形式で発表を行った。また、県内・県外のインターンシップについての調査を行った。

【事業評価】

企業への取材の仕組みと、実際に学生が6社に対して話を聞いたことは重要である。一方で発信力が弱かったので、どこに発信するのかを再度検討して取り組む必要がある。また、東京へインターンシップについて勉強するためにイベント参加したがそれにより、刺激を受けた。外部の学生との接点は重要であると捉えた。

【次年度への展望】

委託事業は終了するが、社長への取材は継続していくこととする。また、発信方法や取材方法などに工夫をする必要性がある。

③鳥取情報市場プロジェクト

鳥取情報市場の学生による活用方法の提案を目的として、20年度1年間かけて取り組んだ。レイアウトの決定から発信情報の精査、室内の雰囲気作りと学生が企画した。また、鳥取情報市場のblogも開設し、まちなか情報(メール配信では量が多くなるようなもの)なども分担し、随時掲載した。

取材としては、朝日新聞、読売新聞、ケーブルテレビ局(NCN)の取材を受ける。鳥取情報市場内において企画されたものを個別に紹介する。

『ブッククロッシング』…全国的に行われているブッククロッシングという企画に賛同し、鳥取情報市場内にブッククロッシングゾーンを設置。自由に図書のやりとりができるようにした。『教科書企画』…大学生の不要になった教科書を後輩に譲る企画。卒業生が本を置いてくれて在学生在が受け取る形を模索した。

『仲間企画』…大学生が鳥取のまちを知らないなら、町歩きをしようということで、平均月1回町歩きを行ない、市場内に報告を掲示した。

『Tukurumi.』…これは大学生のものづくりが好きなグループと連携して、学生による雑貨屋の運営をするというもの。

【事業評価】

“場”でありツールであるため、成果が見えづらい部分があったので、学生モチベーションの維持が難しいプロジェクトであった。一方で年間を通じて、情報提供の視点や、レイアウトの変更など、改善へ向けて動いた過程は学生にとって勉強になったと考える。

【次年度への展望】

参加学生との話し合いを行い、2009年3月をもってプロジェクトを解散することとした。なお、鳥取情報市場の営業およびTukurumi.による販売などは継続する。

④映像プロジェクト

平成17年度より、弊社の活動や農村体験などの映像化を行う。本年度も、地域情報化セミナー(鳥取県取材)の映像資料の作成と、農村映像の作成を行なった。

【事業評価】

今年度は、何を撮るのかについて深く議論をしていなかったため、プロジェクトの主体性が出なかったのが問題点であった。

【次年度への展望】

目的を見失って活動するのは良くないので、参加学生との話し合いを行い、2009年2月をもってプロジェクトを解散することとした。

⑤コヤマ大学(スキルバンク)

学生のスキルアップを目的として、鳥取情報市場をメイン会場とするスキルアップ講習（スキルバンク）を開催。また地域の方への英語教室を併催している。

『スキルバンク』…随時開催、大学では学べないコミュニケーション、プレゼンテーションについての勉強会を開催。また地域活性化についての話『ゲンヨウタナカのすべらない話』なども開催。受講生は平均6名程度。小規模で中身の濃い実践型を行なった。また、就職セミナーなども開催した。

『English cafe』…学生だけでなく、湖山周辺の方にも学んでいただき、且つ留学生の収入源となるようなアットホームな英語の講義を開催。水曜日、木曜日の19:00~22:00（1時間：1コマ）の6コマ開講。受講生は1コマ平均3名程度。

【事業評価】

スキルアップ講座については、スキルを必要とする時期を考えて、まとめた形で講座を組む必要性を感じた。受講生が少ないと実践型の講義はやりやすいが時間がかかってしまう部分もあり、カリキュラムの組み方に検討が必要である。

【次年度への展望】

受講生や、他プロジェクトリーダーなどが講師をやることのできる仕組みが構築されると、講座のバリエーションや、人に教える場所という新たな成長の場所ができることができると感じたので、そういう仕組みも検討したい。また、外部講師を招聘できる体制にし、一般学生にとっても面白い切り口や出会いのキッカケが提供できるとよい。また、一般参加者への呼びかけを増やし、収益構造の改善も見込む。

⑥まちづくり

まちづくりイベントとしては、平成18年より継続している『吉岡温泉ホテル祭り』の開催を学生とサポートした。一つは『ホテルバスの運行』。ホテルの見られる場所までのバスガイドを学生が行なった。観光協会の方にガイドのお手本を見せてもらい台本を作成、それをもとにしながら、学生が案内するというもの。年々ホテルバスへの乗車は増えてきている。

もう一つは、祭り当日の運営サポート、事前広報の協力ということで、テレビ番組への出演。チラシなどの配布。当日はステージの司会進行及び、人力車の運行補助を行った。

【事業評価】

今年度は学生の関わり方が少し薄くなってしまったので、当日の運営が少しうまくいかない部分もあった。

【次年度への展望】

学生を地域の会議などに事前からより積極的に参加させたり、関わる学生の数を増やすことで、学生が関わることで祭りがいい方向にいつているという実感を地域の方にも持ってほしい。

⑦その他企画

大学内での活動の広報や学生イベントの配信補助など、小さな企画を行ったりサポートした。

【事業評価】

各企画の隙間をうめるような形がとられたので、総合的な情報発信として捉えられた。

【次年度への展望】

まだ、弊社の各プロジェクトが総合的に学生に捉えられてない部分があるので、情報発信の部分や学生参加の部分で横をつなぐようなことを行ないたい。

⑧総括

【事業評価】

学生の関わる事業が増えたことにより、一つ一つの事業を細かくサポートする体制と経験が不足していたように感じる。いいカタチで責任と権限を委譲したり、必要なタイミングで話を聞くなどする必要があった。また、より多くの学生をこの事業に関係させることで、いろんな学生に深い経験をしてもらうことができるので、そういった広報や報告の必要性を感じた。

【次年度への展望】

関わる学生を増やすための仕掛けや仕組みづくりをいったん見直す。

(3) 地域の発展等に寄与する多彩な活動の受託

①鳥取県農林水産部耕地課事業農山村ボランティア事務局

→ (2) にて報告

②(財)ふるさと鳥取県定住機構学生サポーター事業

→ (2) にて報告

③とっとり総研との共同研究

本年は(財)とっとり政策創造研究センター(以下とっとり総研)との共同研究として、実践を伯耆町二部地区においてワークショップを開催し地域住民の課題を抽出する作業を行った。また、視察として、新潟、島根、高知を回った。

【事業評価】

伯耆町の担当者からは、非常にきっかけづくりになったと話をいただいた。また、視察は弊社の農村関係の事業を考える上で重要な視点とネットワークを作った。

【次年度への展望】

とっとり総研の調査研究ノウハウは弊社には不足しているものであり、一方弊社の強みである現場での実践力は連携できる部分があるので、そういった話があれば、協力したい。

(4) その他、本団体の目的を達成するための活動事業

①農村活性化にかかるもの

農村16きっぷで関わった集落の物販(野菜や梅の酢漬けなど)を鳥取情報市場で行ったり、鳥取市のグリーンツーリズムのパンフレット作成などを行なった。

【事業評価】

少しでも地域のものが資金源になる仕組みを試せたのは良かった。

【次年度への展望】

より効率が良い形で事業を行えると収益性があがるので、それを目指す。

②司会講演など

鳥取大学において、代表理事の田中が非常勤講師として任命され『地域再考プロジェクト』という主題科目を担当した。受講生は30名。地域にふれさせるため現地実習を2回必須とした科目を行なった。また後期にも1時間鳥取大学内で講義した(主題科目)。

12月には立命館大学にて、1時間講義を行った(組織論:映像学部)。

また、講演依頼として『学生による地域活性化』『農村ボランティア』などをキーワードで話した。東京(5月)鳥取県内(5月)徳島県(12月)、京都府(11月)兵庫県(2月)、東京(3月)鳥取県内(3月)など。

また、副理事の藤田も鳥取県内においてパネルディスカッションのパネラーとして参加した。

【事業評価】

毎年、少しずつであるが講演依頼が増えているのでありがたい。話すことでネットワークも広がるので大事にしたい。また田中だけでなく、藤田にも依頼が来ることで事業体として受け幅が広がることは評価できる。

【次年度への展望】

田中以外が講演を受託できるようにすること、大学との連携を深めること。講演の収益性も考えていくこと。

(2) その他の事業

その他の事業は本年度は特に行なっていない。

二. 全体総括

(1) 大学生を中心とした若者へ現場体験を提供するという目標に対して

① 成長のキッカケ作り

メール配信の対象者である登録者が増えたこと、鳥取情報市場の開設により、約4000人もの方との接点が増えていることは評価できる。よりキッカケを行動に移してもらうような表現方法や、学内広報との連動などメディアミックスにより効果を高める方法を検討する必要がある。

② 現場体験の提供

農村16きっぷを中心として、多くの学生に現場体験を与えている。より考える機会にするためには、深い関わりやジャンルの多様な関わりが必要とされてくる。リピーターやプロジェクトスタッフの人数が増えるような仕掛けを考える必要がある。

③ 成長支援

鳥取情報市場という場所ができたため、成長支援の機会を作りやすくなった。カリキュラムや必要な講座を必要な時期に提供できる体制作りが必須になってくる。また、学生スタッフとのコミュニケーションや講座だけではないノウハウ提供なども必要であったため、職員や先輩ができることを後輩へ説明できる仕組みが必要になる。また、鳥取情報市場を開設することで、学生の多様な相談に乗ることができ始めている。就職に関すること、サークルに関することなど、これも成長支援の一環と言える。

(2) 若者の行動力と視点で地域を活性化させるという目標に対して

① 地域への接点作り

接点作りは非常に多く行なっていると考える。あとは同一地区に何度も行くような学生が出てくると地域にとってもよきパートナーになれる。

② 地域マネジメントサポート

サポートをできた地域とできなかった地域がある。サポートの段階や地域の方向性など地域と話をする中で、適度な関わり方や継続を踏まえた関わり方を考えていく必要性を感じた。

(3) 今後の展望

地域の学生だけでなく、地域の若者に対して目を向けることで、地域に残る人材にノウハウやネットワークができると考える。また地域の学生にとっても、同世代の地域人がいることが新しい刺激になるので、展望としては“地域の若手”を関わらせる仕組みが作れたらと思う。

また、学内での地域と接することのできる団体という認知が不足している点もあるので、それを充足できるよう、広報体制などを強化したい。

科 目	金 額 (単位:円)	
I 資産の部		
1 流動資産		
現金・預貯金		
現金	110,081	
小口現金	90,708	
普通預金		
鳥取銀行県庁前出張所0013061	1,221,592	
郵便貯金		
鳥取東町郵便局15230-7371221	406,388	
売上債権		
情報提供事業売掛金		
(株)情報サービス鳥取	30,000	
石松	15,000	
アパホテル鳥取駅前店	15,000	
株式会社マインドシェア	15,000	
m&m.co	5,000	
有限会社カントリーフード	5,000	
ほくしん株式会社	30,000	
トマト&オニオン鳥取湖山店	30,000	
企画運営事業売掛金		
鳥取県農林水産部耕地課		
平成21年度農山村ボランティア事務局委託料	445,137	
その他流動資産		
前払費用		
鳥取情報市場平成21年4月分家賃	126,000	
未収金		
公用車私用料	5,000	
スキルバンク受講料	2,600	
視察代	10,500	
仮払金		
労働保険料	3,234	
立替金		
学生スタッフ立替金	90,000	
仮払消費税	445,435	
流動資産合計		3,101,675
2 固定資産		
有形固定資産		
建物付属設備		
鳥取情報市場看板1枚	114,000	
什器備品		
パーソナルコンピュータ2台	269,469	
複合機プリンタ1台	540,000	
車両		
三菱TOPPO1台	250,000	
減価償却累計額	△ 422,055	
固定資産合計		751,414
3 投資その他の資産		
鳥取情報市場敷金	126,000	
投資その他の資産合計		126,000
資産の部合計		3,979,089
II 負債の部		
1 流動負債		
未払費用		
スタッフ人件費平成21年3月分	583,494	
返還予定委託料	351,255	
経過勘定	362,065	
立替金		
田中玄洋	70,953	
預り金		
社会保険料	62,631	
源泉所得税	30,498	
受託販売		
鳥取Show up VOL3	3,380	
仮受金		
平成21年度事業委託料	776,000	
仮受消費税	574,683	
流動負債合計		2,814,959
2 固定負債		
長期借入金		
ほくしん株式会社	70,000	
リース債務	457,611	
固定負債合計		527,611
負債の部合計		3,342,570
III 正味財産の部		
正味財産		636,519
正味財産の部合計		636,519
負債・正味財産合計		3,979,089

平成20年度 特定非営利活動に係る事業 貸借対照表

平成21年3月31日

特定非営利活動法人学生人材バンク

科 目	金 額 (単位: 円)	
I 資産の部		
1 流動資産		
現金・預貯金		
現金	110,081	
小口現金	90,708	
普通預金	1,221,592	
郵便貯金	406,388	
売上債権		
情報提供事業売掛金	115,000	
業務委託	445,137	
広告売掛金	30,000	
その他流動資産		
前払費用	126,000	
未収金	18,100	
仮払金	3,234	
立替金	90,000	
仮払消費税	445,435	
流動資産合計		3,101,675
2 固定資産		
有形固定資産		
建物付属設備	114,000	
什器備品	809,469	
車両	250,000	
減価償却累計額	△ 422,055	
固定資産合計		751,414
3 投資その他の資産		
敷金	126,000	
投資その他の資産合計		126,000
資産の部合計		3,979,089
II 負債の部		
1 流動負債		
未払費用	1,296,814	
立替金	70,953	
預り金	93,129	
受託販売	3,380	
仮受金	776,000	
仮受消費税	574,683	
流動負債合計		2,814,959
2 固定負債		
長期借入金	70,000	
リース債務	457,611	
固定負債合計		527,611
負債の部合計		3,342,570
III 正味財産の部		
正味財産		636,519
正味財産の部合計		636,519
負債・正味財産合計		3,979,089

平成20年度 特定非営利活動に係る事業 会計収支計算書
平成20年 5月 15日から 平成21年 3月 31日まで

特定非営利活動法人学生人材バンク

科 目	金 額 (単位:円)	
I 収入の部		
1 財産運用収入		
受取利息	1,702	1,702
2 会費・入会金収入		
正会員会費収入	300,000	
賛助会員会費収入	20,000	320,000
3 事業収入		
ボランティア・イベント・アルバイトの情報提供事業収入	550,488	
学生が主体的に考えて活動するプロジェクト支援事業収入		
農村16きっぷプロジェクト事業収入	4,833,160	
(うち平成20年度農山村ボランティア事務局運営業務委託事業収入)	(4,655,760)	
鳥取仕事専科事業収入	2,372,272	
(うち学生サポーター事業収入)	(2,372,272)	
鳥取情報市場運営事業収入	737,632	
映像プロジェクト事業収入	90,477	
コヤマ大学構想事業収入	245,300	
まちづくり事業収入	117,300	
その他企画事業収入	127,279	
地域の発展等に寄与する多彩な活動の受託収入	1,495,741	
その他、本団体の目的を達成するための活動事業収入		
農村活性化事業収入	165,835	
司会講演等事業収入	257,144	10,992,628
4 その他の収入		
寄付金収入	1,643,280	
補助金等収入	96,000	
雑収入	258,990	1,998,270
当期収入合計(A)		13,312,600
設立時資金有高		1,124,743
収支合計(B)		14,437,343
II 支出の部		
1 事業費		
ボランティア・イベント・アルバイトの情報提供事業費	178,304	
学生が主体的に考えて活動するプロジェクト支援事業費		
農村16きっぷプロジェクト事業費	5,254,319	
(うち平成20年度農山村ボランティア事務局運営業務委託事業費)	(4,676,846)	
鳥取仕事専科事業費	2,365,696	
(うち学生サポーター事業費)	(2,252,269)	
鳥取情報市場運営事業費	1,827,435	
映像プロジェクト事業費	29,641	
コヤマ大学構想事業費	279,338	
まちづくり事業費	106,406	
その他企画事業費	292,255	
地域の発展等に寄与する多彩な活動の受託費	715,214	
その他、本団体の目的を達成するための活動事業費		
農村活性化事業費	207,839	
司会講演等事業費	224,392	11,480,839
2 管理費		
人件費	537,779	
研修費	10,000	
法定福利費	47,738	
福利厚生費	165,375	
通信費	192,568	
水道光熱費	105,459	
旅費交通費	239,050	
広告宣伝費	109,763	
接待交際費	20,587	
会議費	39,104	
消耗品費	121,234	
新聞図書費	49,373	
修繕費	94,009	
地代家賃	353,570	
保険料	45,451	
租税公課	10,800	
支払手数料	18,150	
減価償却費	102,820	
雑費	360	2,263,190
3 その他経費		
支払利息	17,611	
雑損失	39,184	56,795
4 予備費	0	0
当期支出合計(C)		13,800,824
当期収支差額(A) - (C)		△ 488,224
次期繰越収支差額(B) - (C)		636,519

注記表

特定非営利活動法人 学生人材バンク

平成21年 3月31日 現在

当法人は、平成20年5月15日に設立しております
この計算書類は、中小企業の会計に関する指針によって作成しています

【重要な会計方針に係る事項に関する注記】

- (1). 資産の評価基準及び評価方法
 - ①. 有価証券の評価基準及び評価方法
 - ア. 時価のあるもの 決算期末日の市場価格等に基づく時価法（評価差額は全部資本直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定）
 - イ. 時価のないもの 移動平均法による原価法
 - ②. 棚卸資産の評価基準及び評価方法
総平均法による原価法
- (2). 固定資産の減価償却の方法
有形固定資産：定額法
無形固定資産：定額法
- (3). 引当金の計上基準
貸倒引当金:売上債権、貸付金等の貸倒損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。
- (4). その他計算書類の作成のための基本となる重要事項
 - ①. リース取引の処理方法
リース物件の所有権が借主に移転すると認められるもの以外のファイナンス・リース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっております。
 - ②. 消費税等の会計処理
消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式を採用しております
- (5). 資金の範囲
資金の範囲は正味財産としております

【貸借対照表に関する注記】

- (1). 有形固定資産の減価償却累計額 422千円
- (2). 関係会社に対する金銭債務
ほくしん株式会社 70千円

【リースにより使用する固定資産に関する注記】

事務用コピー機等についてはリース契約により使用しております。

- (1). リース物件の所有権が借主に移転すると認められるもの以外のファイナンス・リース取引
 - ①リース物件の取得価額相当額

	什器備品	合 計
取得価額相当額	540,000	540,000

- ②未経過リース料期末残高相当額

	1年以内	1年超	合 計
未経過リース料期末残高相当額	120,000	380,000	500,000

- ③当期の支払リース料、減価償却費相当額及び支払利息相当額

支払リース料	100,000	
支払利息相当額	17,611	

- ④支払利息相当額の算定方法

リース料総額とリース物件の取得価額相当額との差額を利息相当額とし、各期への配分方法については利息法によっております。

平成20年度 その他事業に係る事業 財産目録

平成21年3月31日
 特定非営利活動法人学生人材バンク

科 目		金 額 (単位：円)	
I	資産の部		
1	流動資産		
	現金・預貯金	0	
	売上債権	0	
	その他流動資産	0	
	流動資産合計		0
2	固定資産		
	固定資産合計		0
3	投資その他の資産		
	投資その他の資産合計		0
	資産の部合計		0
II	負債の部		
1	流動負債		
	未払費用	0	
	流動負債合計		0
2	固定負債		
	長期借入金	0	
	固定負債合計		0
	負債の部合計		0
III	正味財産の部		
	正味財産		0
	正味財産の部合計		0
	負債・正味財産合計		0

平成20年度 その他事業に係る事業 貸借対照表

平成21年3月31日

特定非営利活動法人学生人材バンク

科 目		金 額 (単位：円)
I	資産の部	
	資産の部合計	0
II	負債の部	
	負債の部合計	0
III	正味財産の部	
	正味財産の部合計	0
	負債・正味財産合計	0

平成20年度 その他の事業 会計収支予算書
平成20年5月15日から 平成21年3月31日まで

特定非営利活動法人 学生人材バンク

科 目	金 額 (単位：円)	
I 収入の部		
1 財産運用収入	0	0
2 会費・入会金収入		
正会員会費収入	0	
賛助会員会費収入	0	0
3 事業収入		
役務の提供事業	0	
物品の販売事業	0	0
当期収入合計 (A)		0
前期繰越収支差額 (設立時資金有高)		0
収支合計 (B)		0
II 支出の部		
1 事業費		
役務の提供事業	0	
物品の販売事業	0	0
2 管理費		
事業促進費	0	
人件費	0	
福利厚生費	0	
消耗品費	0	
支払リース料	0	
旅費交通費	0	
通信費	0	
地代家賃	0	
水道光熱費	0	
支払保険料	0	
雑費	0	0
4 予備費		0
当期支出合計 (C)		0
当期収支差額 (A) - (C)		0
次期繰越収支差額 (B) - (C)		0

役員名簿

特定非営利活動法人 学生人材バンク

役職名	(フリガナ) 氏名	住所又は居所	報酬の有無
代表理事	タナカゲンヨウ 田中玄洋	鳥取県鳥取市湖山町南一丁目 246 番地	有
副理事	カゲヤマフミヒコ 影山文彦	鳥取県鳥取市湖山町南一丁目 246 番地 溝口義人方	無
副理事	フジタヨシコ 藤田良子	鳥取県鳥取市布勢 112 番地 18 ASK コーポ 501 号	無
監事	ナガイノブカズ 永井伸和	鳥取県境港市麦垣町 100 番地	無
監事	ヤマナカヒデオ 山中英雄	鳥取県鳥取市円護寺 106 番地	無